

第3節 生活環境

1. 人 口

本市の平成 17 年 10 月 1 日現在の人口は、表 18 に示す 102,370 人で、減少傾向にあり、世帯数は 41,387 世帯、人口密度は 149 人/㎡、15～64 歳が 58.9%です。また、表 19 のとおり女性が多く、一世帯あたりの人数は 2.4 人です。なお、65 歳以上の割合は全国や県に比べ高くなっています。

表 18 年齢3区分別人口及び割合

総人口	年齢3区分別人口			年齢3区分別人口割合(%)		
	0～14 歳	15～60 歳	65 歳以上	0～14 歳	15～60 歳	65 歳以上
102,370	15,458	60,296	26,616	15.1	58.9	25.9

※総人口は年齢不詳を含む 資料：平成 17 年国勢調査

表 19 性別人口及び世帯数

人 口（人）			性 比	総世帯数	一般世帯人員	一 般世帯数	一般世帯における1世帯当たり人員
総 数	男	女					
102,370	48,195	54,175	89.0	41,387	98,929	41,210	2.40

資料：平成 17 年国勢調査

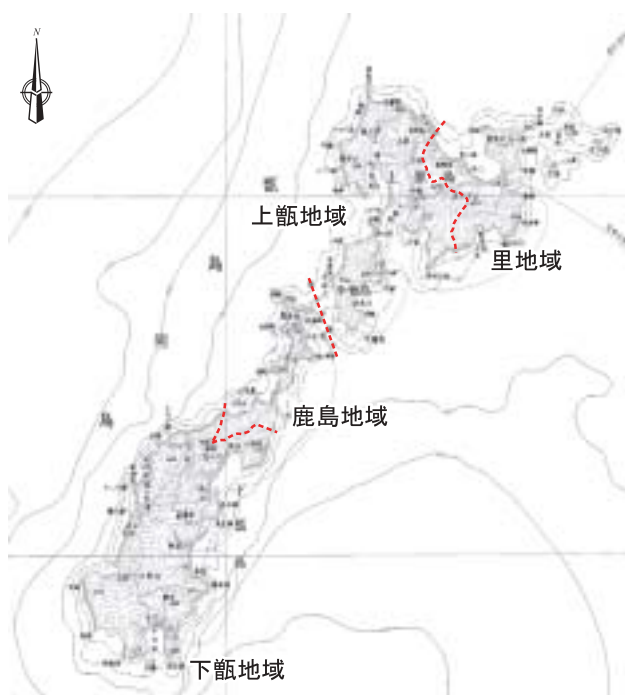
2. 地域別の面積と人口

表 20 に支所ごとの面積、人口、世帯数を示します。

表 20 地域別人口及び世帯数

地域名	川内	樋脇	入来	東郷	祁答院	里	上甕	下甕	鹿島
面 積	265.48	64.18	72.38	80.15	82.56	17.31	35.13	57.63	8.68
人 口	72,368	7,709	6,085	6,114	4,536	1,419	1,664	2,529	591
世帯数	30,986	3,372	2,649	2,457	1,878	642	892	1,394	353
1 世帯当たり人員(人)	2.34	2.29	2.3	2.49	2.42	2.21	1.87	1.81	1.67

資料：薩摩川内市役所、薩摩川内市の概要（平成 18 年 4 月 1 日）
※国勢調査と住民基本台帳の合計は異なる



参照：国土地理院 数値地図 1:200,000 日本Ⅲ 平成9年

凡 例	
—	市界
---	地域界
---	地域界（旧川内市）

資料：薩摩川内全図 1/50,000
川内土木事務所管内図



参照：鹿児島県川薩耕地事務所管内図 1:100,000 平成17年6月 鹿児島県川薩耕地事務所

▲ 地域区分図

3. 土地利用現況

本市における土地利用状況は、表 21 のとおり山林30%、田7.1%、畑5.4%、原野6.2%、宅地3.5%となっています。（税務課調べ）

表 21 土地利用状況

各年1月1日現在（単位：ha）

年度	合計	田	畑	宅地	山林	原野	雑種地	その他
H16	68,348	4,913	3,751	2,401	24,912	4,232	1,119	27,019
H17	68,348	4,858	3,682	2,410	20,706	4,218	1,098	31,377

資料：統計薩摩川内

4. 産 業

産業別就業人口の割合は、表 22 のとおり第1次産業9.2%、第2次産業29.3%、第3次産業61.0%となっています。県全体と比較すると第1次産業と第3次産業の割合が若干低くなっており、第2次産業の割合が高いことが特徴です。

表 22 産業別人口

市町村	就 業 者	第1次産業		第2次産業		第3次産業	
	総 数	人 口	割合(%)	人 口	割合(%)	人 口	割合(%)
薩摩川内市	47,183	4,356	9.2	13,838	29.3	28,783	61.0
鹿児島県	809,835	94,335	11.6	171,497	21.2	539,970	66.7

資料：平成17年国勢調査

就業人口からみた場合、第3次産業の比重が高まりつつありますが、鹿児島県平均と比べると、第2次産業、特に製造業の割合が高く、県内でも有数の工業都市となっています。（資料 薩摩川内市総合計画）

本市の農業は、主要作物である水稻を中心に、果樹、茶、畜産などを組み合わせた複合経営です。最近における農業を取り巻く情勢は、米の自由化、生産調整、米価下落など非常に厳しい状況にあります。また、高齢化・混住化など多くの課題があります。

農家数は年々減少しており、農業離れが進む一方高齢化も進み、16歳から39歳の労働力減少が著しく、農業及び農村の振興のため、担い手の育成を図る必要があります。

畜産は肉用牛生産が主で、優れた種雄牛が管内にいたため、管内子牛セリ市場のセリ価格が高値で推移し、県内外より優れた子牛の生産地域として高く評価されています。

園芸作物は、かごしまブランドのいちごを始め、ゴーヤ、ごぼう、ラッキョウなどのJA共販作物とキュウリ・さといもなどの特産品加工センター契約栽培及び無人販売所向けの高齢者による少量多品目の栽培が行われています。

果樹は、かごしまブランドのハウスきんかんを始め、ブドウ・ナシの栽培が盛んで、これらは都市部大型市場へ出荷し、また、観光農園を開設してPR販売を進めています。

林家の所有規模は、ほとんどが小規模経営で、その大部分が農業との複合経営です。特用林産は、近年早掘たけのこ生産が伸びつつあり、また、竹炭や千両などの生産は同好会を中心に取り組んでいます。林業労働力は、林業労働の担い手である森林組合の作業班の減少に加え高齢化が進んでいます（資料 過疎地区自立促進計画）。

5. 観 光

川内川花火大会、薩摩川内はんやまつり、川内大綱引などの催事、可愛山陵・新田神社、薩摩国分寺跡史跡公園、清色城跡、薩摩川内市入来麓伝統的建造物群保存地区、亀城跡などの歴史的・文化的資源、西方海岸・唐浜海岸、甌島などの変化に富んだ海岸と海水浴場、薩摩川内市寺山いこいの広場、自然観光公園柳山アグリランドなど美しい景観、市比野をはじめとする高城、入来、藺牟田などの温泉資源、ラムサール条約の藺牟田池など、様々な観光資源に恵まれています。



▲ 観光資源図（資料：のんびりゆったり薩摩川内市）

6. 公共施設

市庁舎と各支所が行政の中核となり、保健衛生施設として病院が 152 ケ所、教育施設として市立幼稚園 20 園、小学校 47 校、中学校 16 校、高校 7 校の他、中央図書館と分館が 8 ケ所、歴史資料館、少年自然の家、川内・入来文化ホール、体育館などがあります。

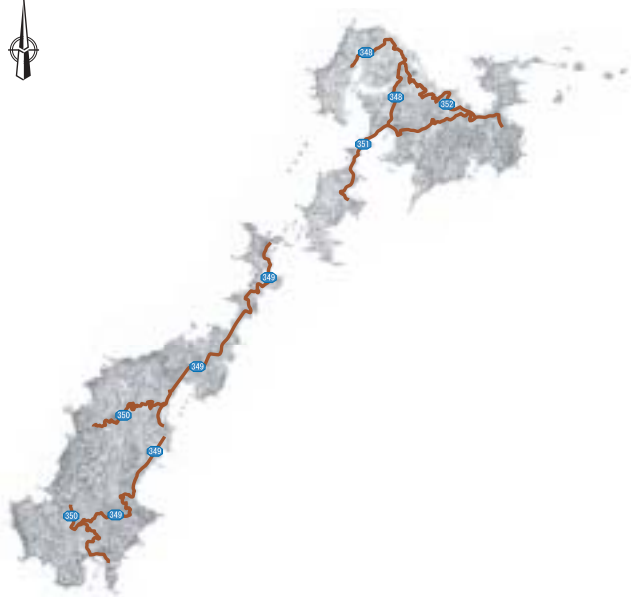
7. 道路網

国道 3 号，国道 267 号，国道 328 号及び主要地方道が幹線として，県道，広域農道，及び市道と連絡しています（表 23）。また，南九州西回り自動車道の鹿児島 I.C から薩摩川内都 I.C まで開通し，今後は，仮称高江 I.C，仮称川内 I.C の開通が予定されています。

表 23 道路整備の状況

区 分		国道 (m)		県道 (m)			市道 (m)
		国管理	県管理	計	主要地方道	一般県道	
実延長		29,988	32,165	337,510	109,884	227,626	1,521,239
内 訳	改良済延長	29,988	30,086	274,149	104,341	169,808	838,783
	未改良延長	0	2,079	63,361	5,543	57,818	682,456
	舗装済延長	29,988	31,705	337,063	109,437	227,626	1,396,142
	未舗装延長	0	460	447	447	0	125,097

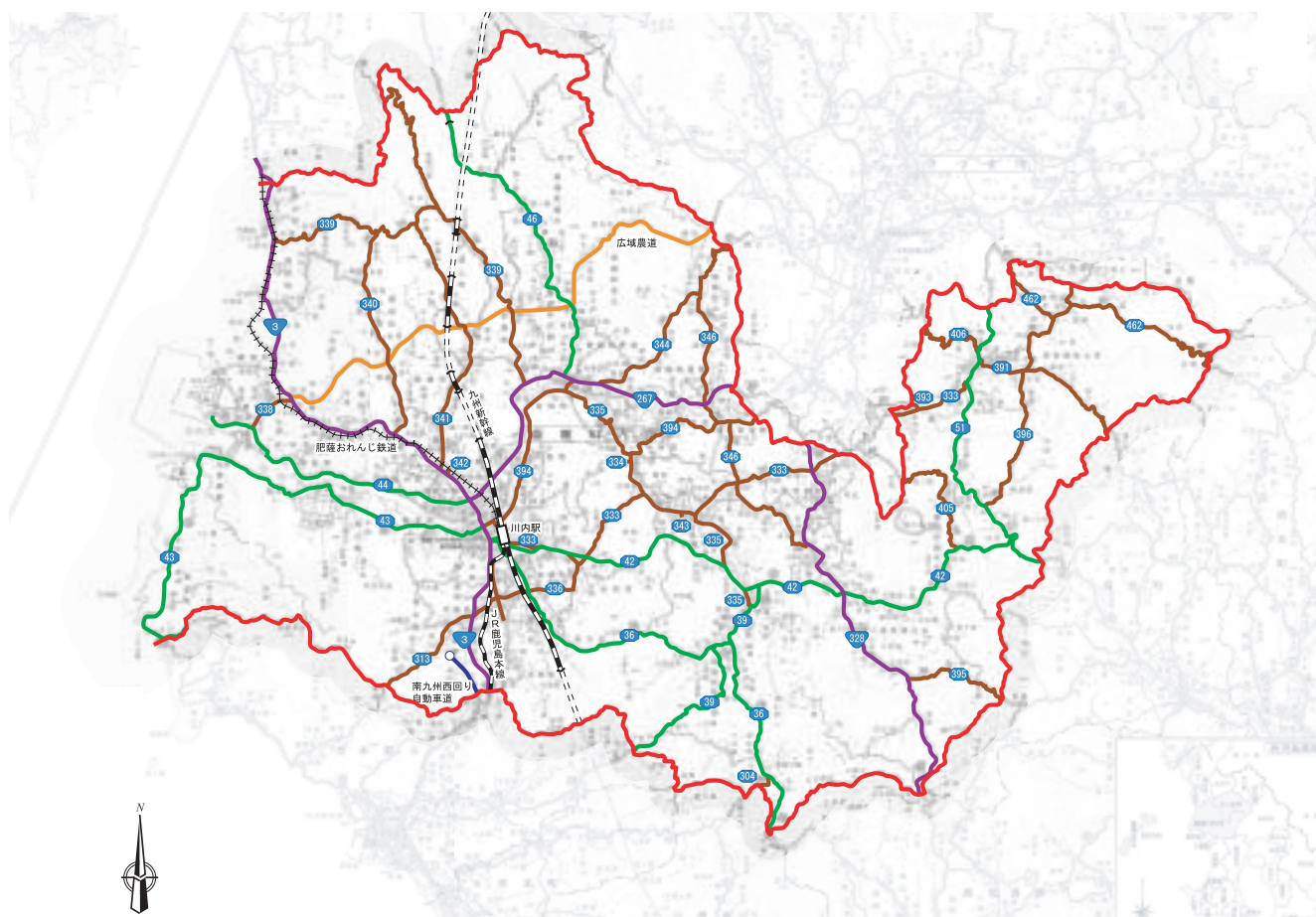
資料：薩摩川内市建設維持課調べ(平成 18 年 4 月 1 日現在)



凡 例	
	南九州西回り自動車道
	一般国道
	主要地方道
	一般県道
	広域農道
	九州新幹線
	J R 鹿児島本線
	肥薩おれんじ鉄道
	市界

参照：鹿児島県川薩耕地事務所管内図 1:100,000 平成17年6月 鹿児島県川薩耕地事務所

資料：川薩耕地事務所管内図 1:100,000
薩摩川内市管内図 1:50,000



参照：鹿児島県川薩耕地事務所管内図 1:100,000 平成17年6月 鹿児島県川薩耕地事務所

▲ 道路交通網図